

(54) 高山(たかやま)鉾山跡一追追記

本鉾山跡についての第3報である。既報を先に読了していることを前提として、探査記を書き出す。鉾山図からすると規模は結構大きな鉾山であった。が、閉山後の現地の治水工事、及び現地に近接した東荒川ダムの建設により、尚仁沢の右岸にあった鉾山施設跡はほぼ完全に消滅したと思われる。が、現時点までに数カ所で「鉾山跡」らしい場所を認めたので、それらを本報でまとめて報告しよう。

2021年9月15日



図1 東荒川ダムの北側の中央の赤丸の所が現地である。461号線を玉生地区で「藤原一宇都宮線」に入り、北上して行く。

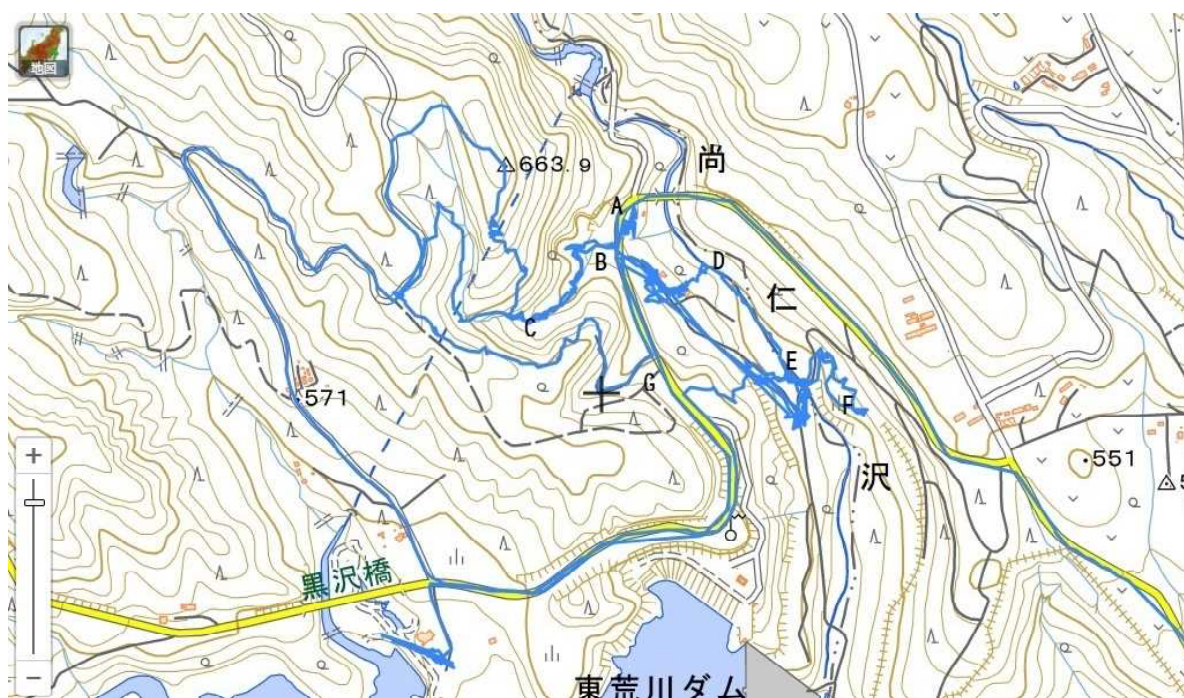


図2 図1の部分拡大図。何回かにわたった経路ログ（水色線）を重ね書きしている。既報の図と対応できるように要点にアルファベットを書き入れている。

1. A点は「尚仁沢湧水駐車場」である。
2. B点からC点の沢床には薄いながら、硫化鉱物の転石が散在している。
3. 砂防ダムもあるC点の急峻な左岸には、ほぼ垂直な露天掘り跡があり（既報の写真参照）、あちこちに孔雀石が見られる。
4. D点付近の尚仁沢の右岸にはズリ跡らしい箇所がある。
5. 古くて簡易の橋のあるE点付近には、坑内排水用であったと思われる配水管があり、現在でも元気よく水を流し出している。
6. 橋を渡って直ぐ右側の林の中のF点には広いプラトーがあり、「堆積場」跡と判断した。捨て石を堆積させる前に閉山となったのか、捨て石を見つけてはいない。
7. 現地の探査で、G点から林道を登り上がり、山中を歩き回り、663.9mに登り上がった。その後、経路ログに示しているように現地を大きく迂回し元へ戻った。この経路中については特記することはない。

鉱山跡写真



写真1 尚仁沢のD点付近で右岸を見上げると見られた排水管類。赤丸の所。



写真2 写真1で示している斜面を登り上がる。プラトー地の沢側に見え隠れしている排水口。赤丸の所。
D点付近は旧通洞坑の出口の先とほぼ一致している。



写真3 尚仁沢の右岸のE点にあった配水管。このE点付近は「新通洞坑」の出口の先とほぼ一致している。配水管の先は地中の中に埋もれている。その先には、源流となるべき沢は全くない。鉱山跡地の再開発で、鉱山跡はほぼ抹消されたと思われる。



写真4 F点付近である。新たに鉱山跡として確認した場所である。知人からの情報ではこの付近に「堆積場」があったとか。なだらかな山の斜面を広場状に切り開き、コンクリート製の排水設備も備わっていた。が、「堆積物」が見当たらない。ズリがあることを期待していたのであるが。この場所を利用する前に閉山となったのかもしれない。



写真5 E点の所。尚仁沢に架かっている「仮橋」のような橋である。赤輪の所。

(54) 高山(たかやま)鉱山跡一増補版

新しく参考文献(1)を入手した。本鉱山の参考資料として、本稿の「追記」で紹介していたのは「日本の鉱床総覧(上巻、下巻)」であった。が、この新文献はそれを凌ぐほどの、本鉱山の非常に詳細な鉱山図が掲載されていた。「追記」中の鉱山図と、本稿の図3を比較すれば一目瞭然である。この新資料を手引きとし、さらにはGPSのガーミンによる経路ログを得るために、何度か本鉱山跡の再探査を繰り返した。

本鉱山跡を訪問したい方への特記

- (1) 現地は主要道路の近傍である。つまり、訪問が楽である。
- (2) 近くに有名な尚仁沢湧水地があり、近傍の東荒川ダムに隣接している公園では、この湧水を無料で頂ける。
- (3) 鉱山的には「垂直露天掘り跡」が視認できる。沢では銅の2次鉱物も散見している。努力次第では良好な銅鉱物が採集できるかも。
- (4) 現著者自身による鉱山跡未確認の箇所がいくつもある。従って探査しがいがあるということ。

2019年12月、その他

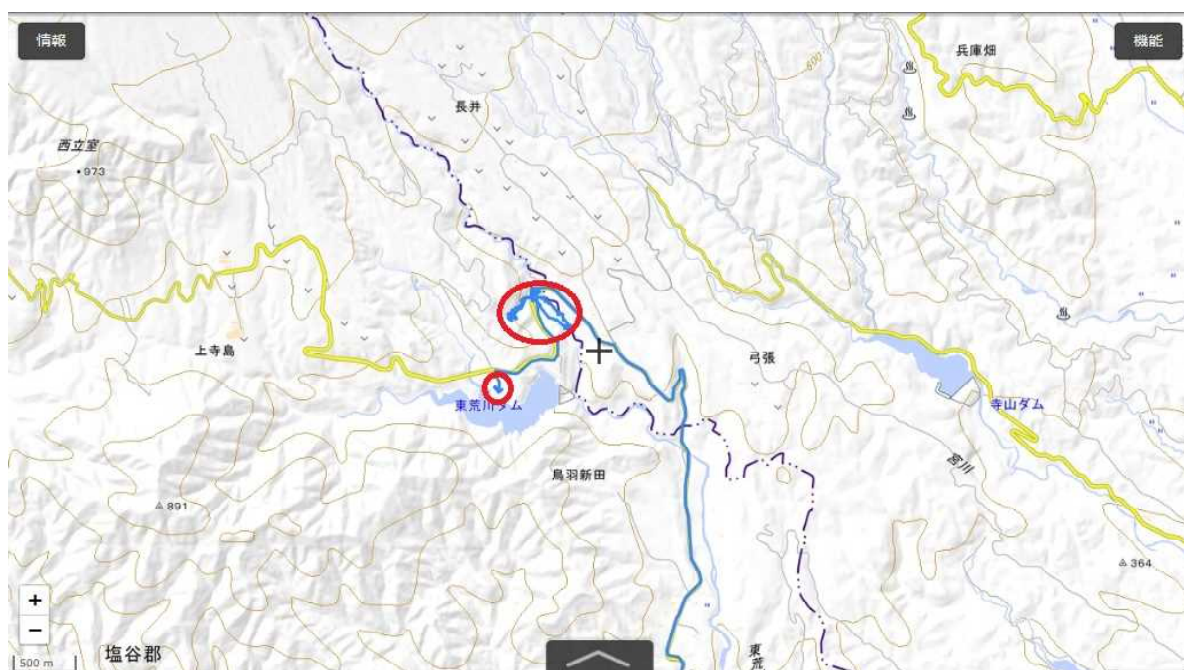


図1 水色が高山鉱山跡へのGPSガーミンによる経路ログ。塩谷町の玉生(たまにゅう)から63号線を北上して行く。大きい方の赤丸が鉱山跡。鉱山跡近傍に「尚仁沢湧水駐車場」があり、車で来たならば、この場所を利用すると良い。トイレも完備している。小さい方の赤丸には公園があり、日本の名水の1つである尚仁沢の湧水を無料で汲める場所でもある。売店、レストラン等もある。

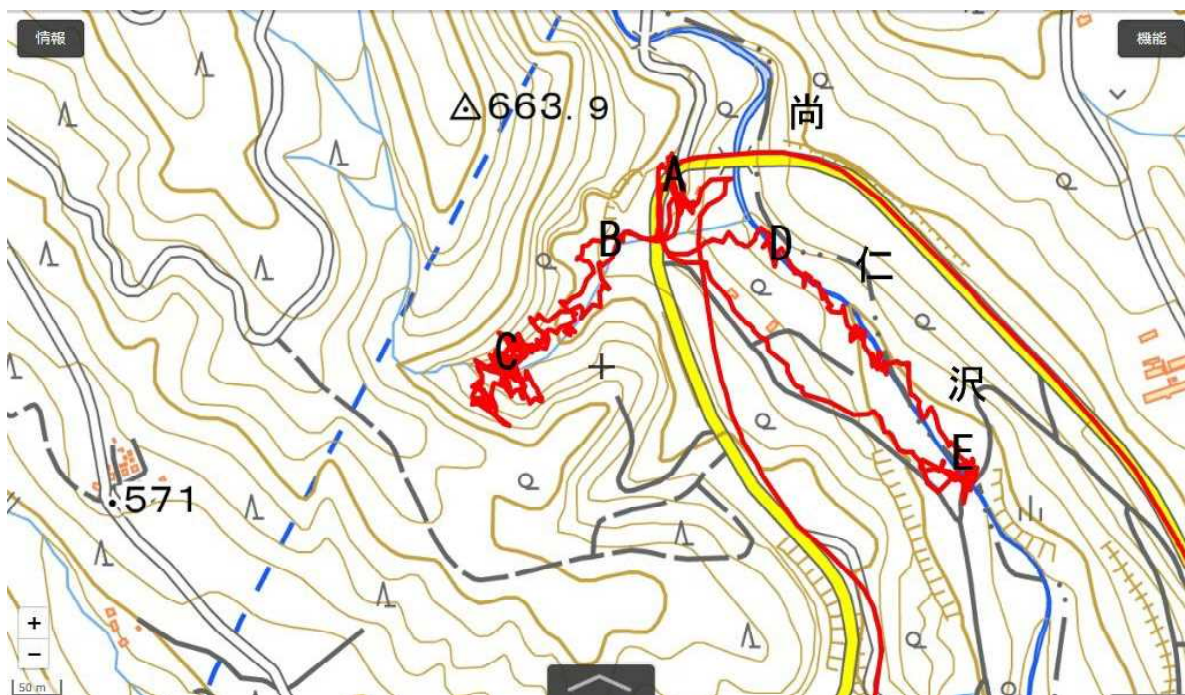


図2 図1の部分拡大図。ガーミンの経路ログは尚仁沢の水色と混同させないために、この図では赤色曲線で示している。アルファベット文字はチェック点。63号線を北上してきて、尚仁沢の橋を渡ると、直ぐ左側に駐車場がある、A点である。B点は巾のある緩やかな沢。沢に向かって左側から簡単に沢に入れる。この沢には沢山の砂防ダム、沢の斜面には沢山のコンクリート擁壁がある。治山のためであろう。C点の所には沢の左岸のほぼ垂直な岸壁にこれも垂直方向に長い、幅の狭い露天掘り跡がある。

D点付近の沢の斜面で幾つかの低品位の鉱物標本を採集した。この付近は後掲の図3の鉱山図によれば、「旧通洞」の沢側に位置している。ズリ跡の探査に歩き回ったのだが、ズリ跡は確認できていない。

E点付近で排水管を見つけた。後掲の写真を参照。

図3によれば、DからEあたりに通洞坑、鉱山事務所、鉱山施設があった。この付近を探索し回ったが、一応明瞭な鉱山施設跡としては、E点付近の配水管だけである。この当たりの尚仁沢右岸は、東荒川ダムの建設に伴って、大幅に改修され、明瞭な鉱山施設跡はそれにより消滅したのかも。

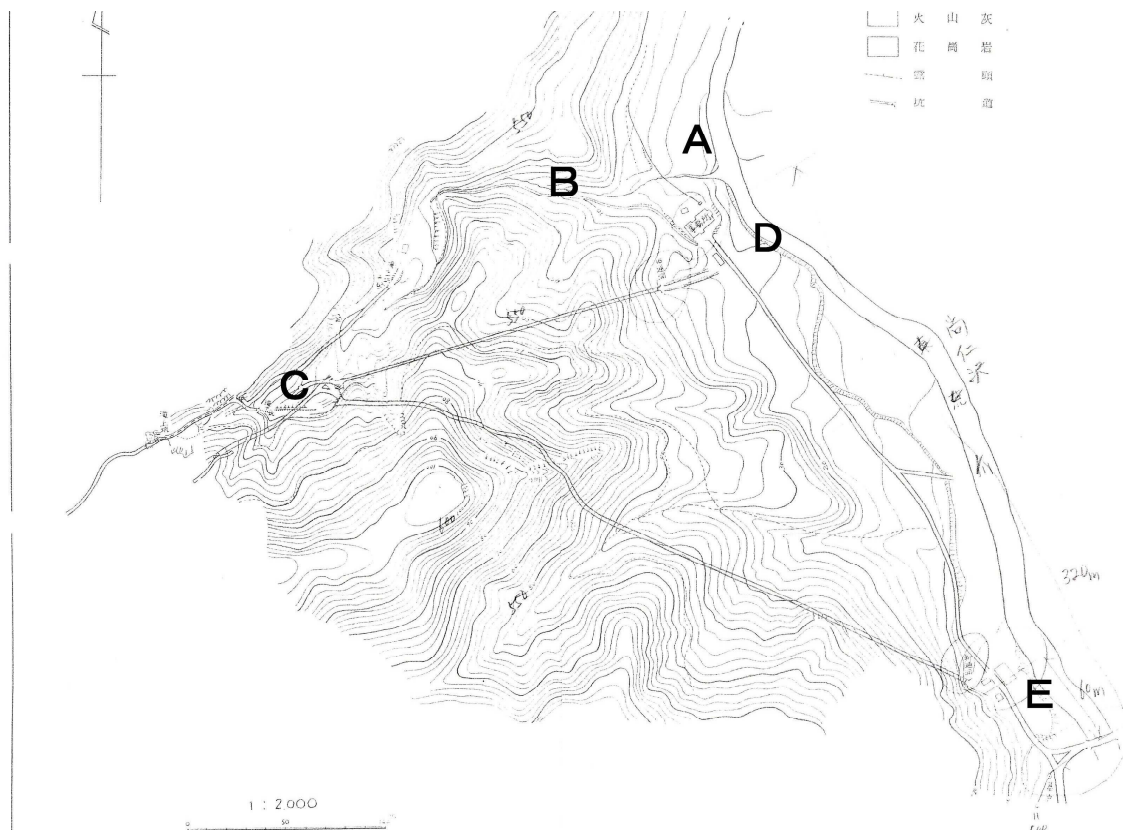


図3 参考文献(1)より複写掲載。現在の地形図である図2と良く対照できる。図2との対応箇所と同じアルファベット文字を記している。文字つぶれが見られるが、拡大表示すれば、明示されよう。A点の少し北の上流部に現在、尚仁沢橋が左右にかかっており、E点の少し下流には現在でも古びた橋が左右に架かっている。

DとEの間に道路(鉾山内道)があるが、この道は現在の林道(図2参照)より東側、つまり尚仁沢寄りに位置している。現地の再開発に伴い「鉾山内道」は消滅し、「新林道」が造成されたのであろう。それに伴い、旧通洞坑も、新通洞坑も埋もれてしまったのであろう。DとEの間の尚仁沢の右岸の少し上部には石垣組が残存し延びている。鉾山道の擁壁だったのかも。

鉾山跡写真

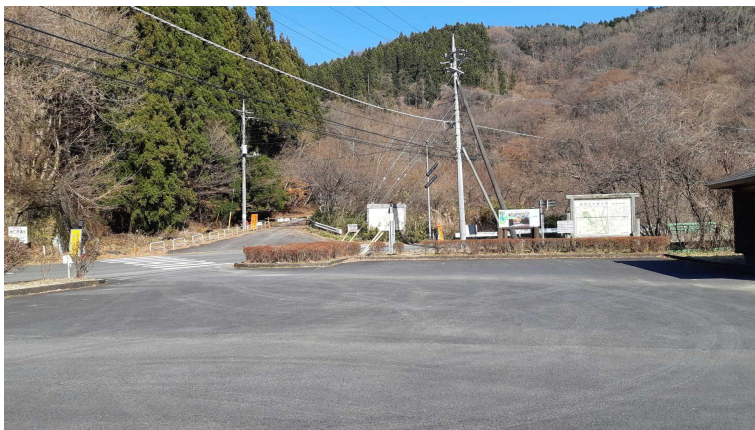


写真1 A点である。「尚仁沢湧水駐車場」。前方の山の方に延びている林道の先に尚仁沢湧水場がある。駐車場から湧水場までは知られたハイキングコースとなっている。徒歩30分程度。今回紹介する鉾山跡は写真の左手をはみ出た所のある涸れ沢の上流にある。図2中のログ通り。



写真2 D点付近にあった、沢の左岸箇所の「大きな陥没跡」。図3からこの付近の地下に坑道が存在したことが分かる。地下にあった坑道が潰れて出来たのであろう。



写真3 この沢にあった最終の「砂防ダム」。右側の岩盤には既報の「追記」で紹介しているように垂直な露天掘り跡がある。これを下流側とする。このダムに向かって右端の付け根にも露天掘りの跡がある。写真4参照。上流側とする。これらは岸壁内で貫通しているようである。このダムの上には、少し戻って、沢の右岸を巻けば、容易に登り上がれる。赤丸の岸壁と写真4の赤丸の岸壁は同じ岸壁である。



写真4 ダムの左岸の付け根部分にあった。露天掘りの跡。大きさの比較のために、ハンマーをおいている。

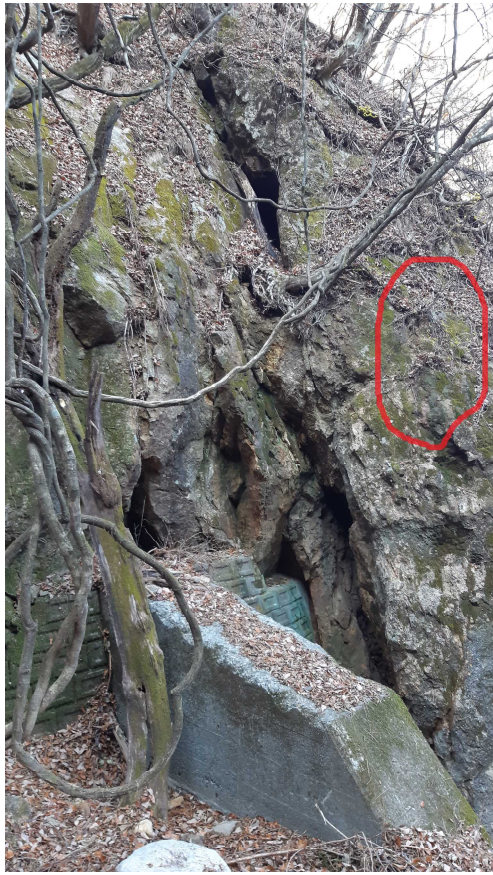


写真5 写真3で示しているダムの上から沢の左岸を見ている。垂直に露天掘りの跡が見えている。前方のコンクリートブロックが緑青に染まっている。

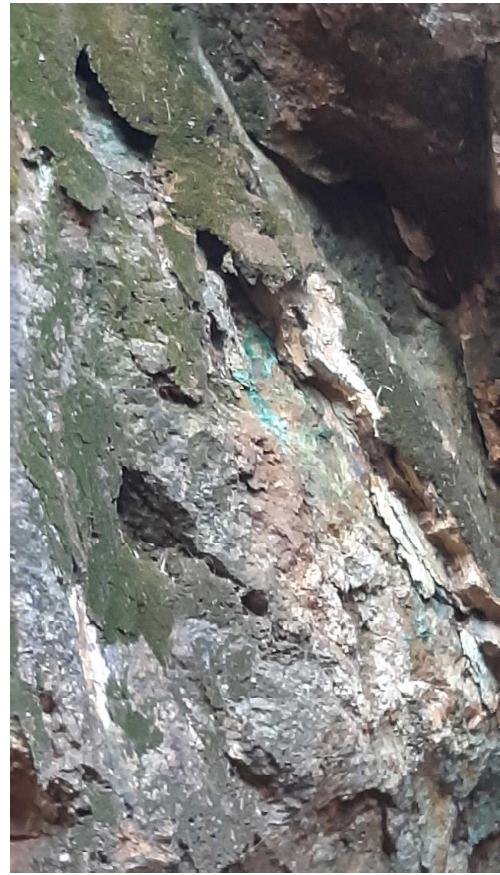


写真6 岸壁に孔雀石であろう薄青色が見える。



写真7 E点付近で見かけた、排水口。流れ出している水には濁りなどは確認できなかったが、坑道からの排水と思われる。この配水管の先を辿ったが分からず。現地の再開発で完全に埋没してしまったようである。

参考文献

(1)「地下資源調査報告書 第1号」、栃木県、1956年。

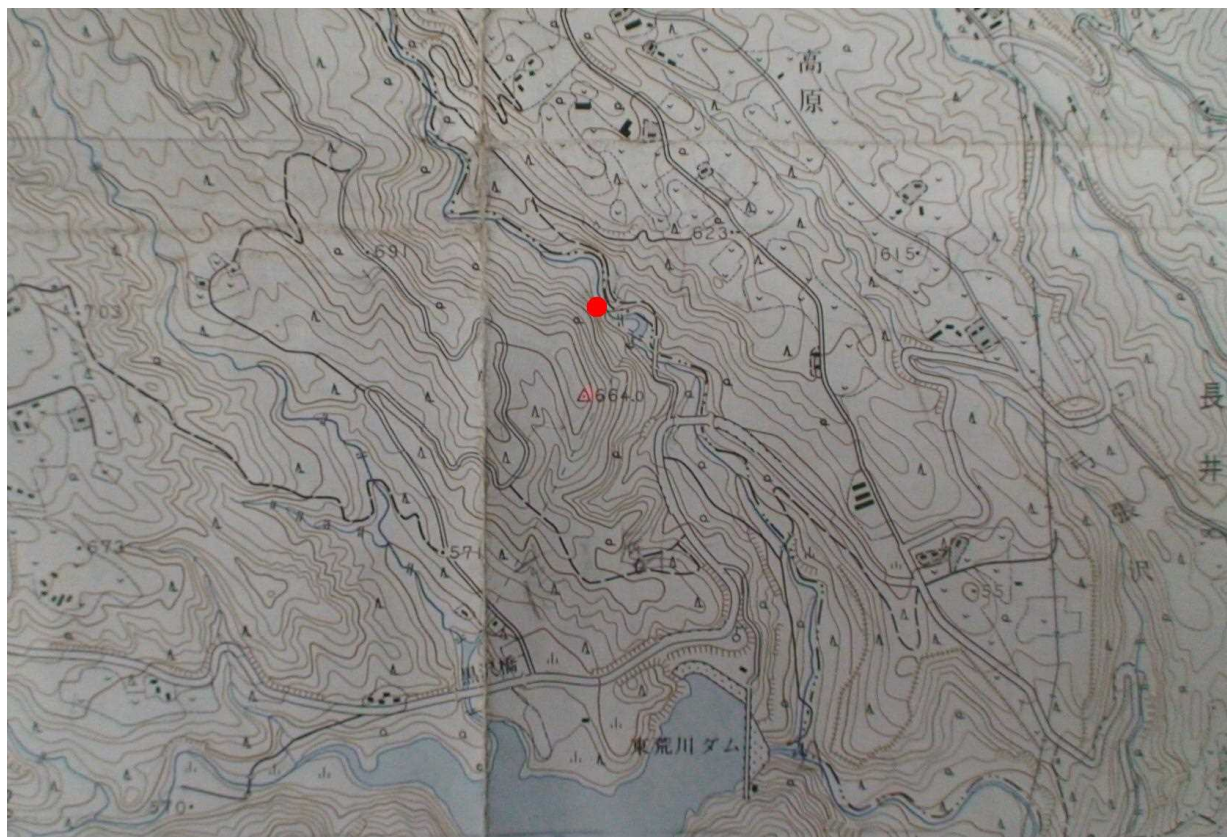
(54) 高山(たかやま) 鉾山跡

栃木県塩谷地区にある。参考文献(1)によれば、「基盤は黒雲母花崗岩であって高原火山の浮石流がこれを厚く覆っている。鉾床は花崗岩中に存在し、鉾脈に接する母岩は著しく緑泥化作用を受けている。鉾石は黄鉄鉾、黄銅鉾、石英である。」

前述の天上沢鉾山への経路と同じであるが、東荒川ダムの手前、尚仁沢のところで車を止める。駐車場があるのでそれを利用すればよい。尚仁沢の上流には、高原山からの湧水がわいている箇所があり、名所となっている。駐車場から尚仁沢に沿った舗装道路を上っていく。尚仁沢を渡ると2つ連続したダムが左手に見える。指導標通りに道を進んでいくと、急激な登りとなり、それを登り切った先に、吊り橋でまた尚仁沢を渡る。地形図に書かれているこの辺りより先の林道は消失してしまっている。新しい林道、登山道が、吊り橋を渡った先に続いている。尚仁沢の右岸に伸びている。

標高564mの山が高山である。古地質図を参考にして、この辺りの尚仁沢近傍を探索した。鉾山遺跡、坑口などは見つけれなかった。が、大凡垂直に伸びている石英脈を見つけた。地形図中の赤丸の所である。吊り橋の付け根付近。その写真は後掲している。この脈にハンマーを当てて採集した微小水晶群の標本を採集した。赤丸の所の沢は、下流にある砂防ダムに堆積した土砂で完全に埋まっていて、平らな川原となっている。この土砂の下右岸側に坑口があったのではないかと推論している。が、現地で、出会った人に尋ねると「高山鉾山は山の向こう側、黒沢橋の所の林道を登って真ん中当り」とのこと。後でその当りを歩き回ったが、成果なし。???

もう少し探索をしたい場所である。



赤丸の所に数十cm厚の露出石英脈があった。

地図 国土地理院 2万5千分の1 地形図「高原山」

探査日 2010年3月、その他の日

参考文献

(1)「日本地方鉾床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、1973年。

鉾山跡写真



尚仁沢への入り口。砂防ダムの所まで舗装道。撮影位置は駐車場。



上流側から吊り橋を見る。吊り橋の付け根下に幾つかの石英脈がある。下の2枚参照。





吊り橋の先の右側に、階段がある。この階段の山側斜面中にも垂直な露出石英脈がある。



階段下に降りて、ハンマーを物差し側に当てて撮影。厚さ20cmぐらいか。

採集鉱物写真



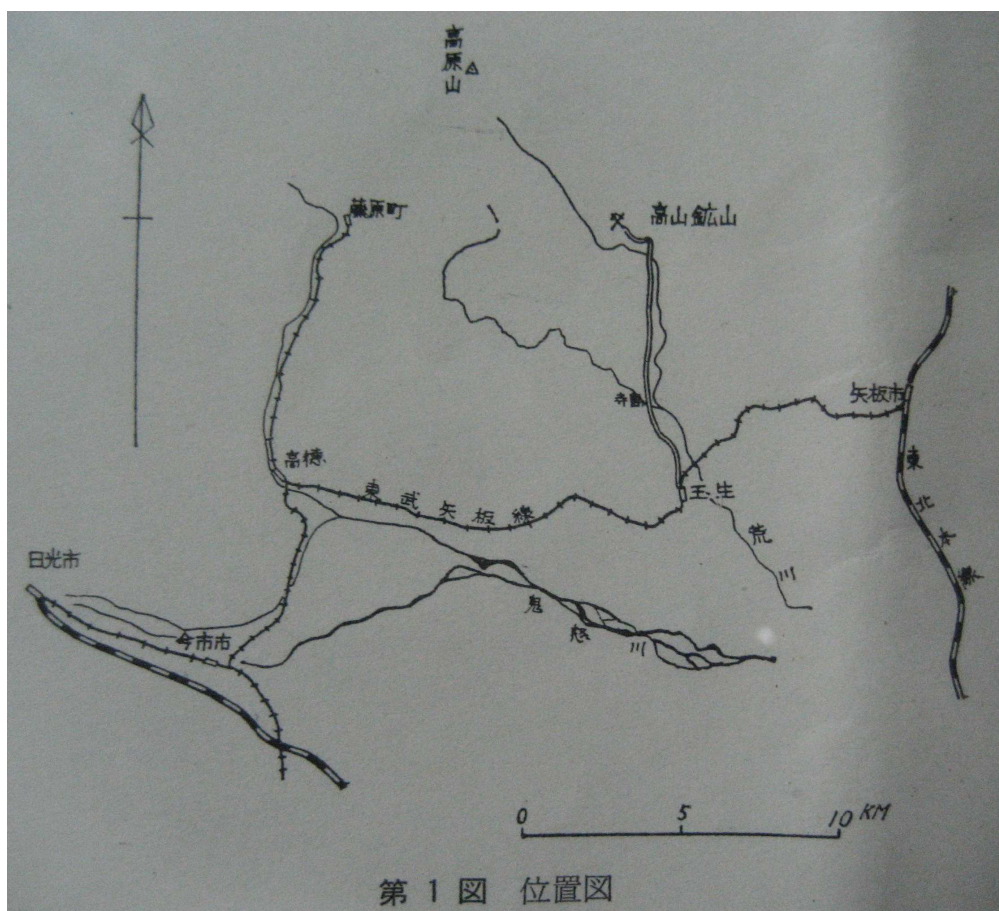
上の石英脈から採取した微少水晶の塊

追記

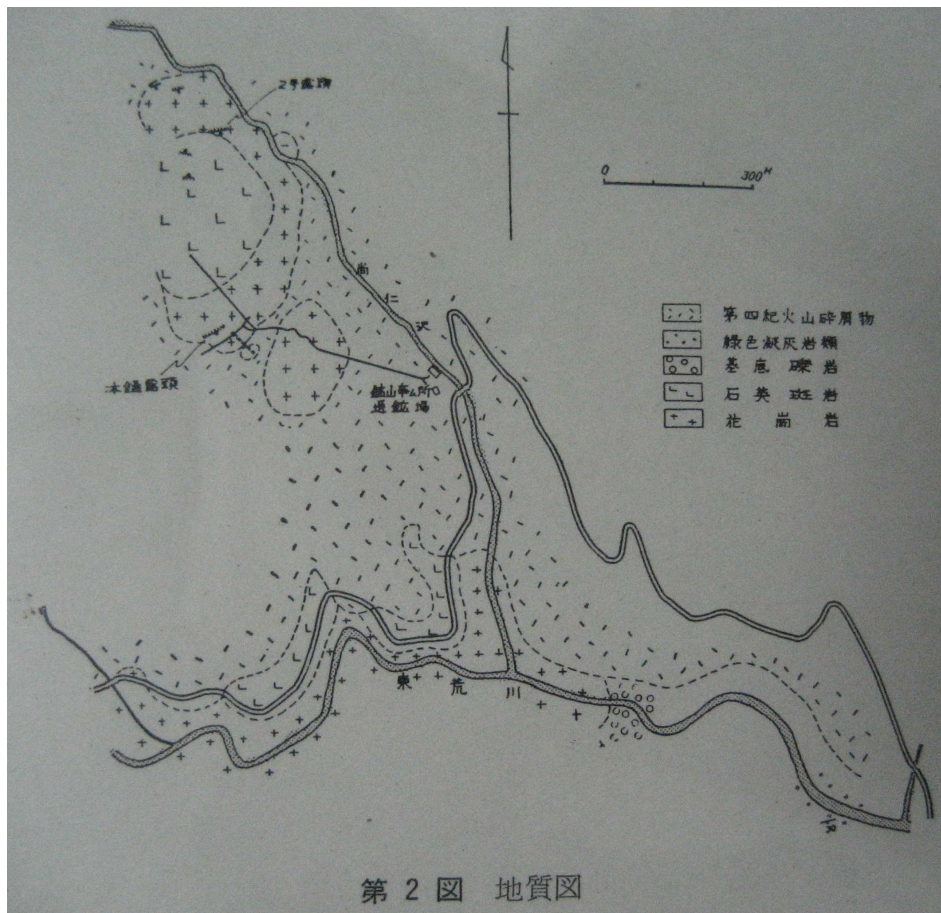
既報の通り、高山鉦山の探査は芳しくなかった。しかし最近、参考文献（２）を最近閲覧することができた。この本に、高山鉦山の解説が記載されていた。かつ、嬉しいことに、高山鉦山の位置図と地質図が掲載されていた。以下に、その２図を転写掲載している。現在の地形図と、ここに掲載している地質図を重ねあわせ比較すると面白い。地質図から、鉦山事務所、選鉦所、坑口が旧道の橋の上流の尚仁沢右岸にある。そこから西北西の方向に本ヒ露頭、尚仁沢の上流の右岸に２号露頭があることがわかる。最新の地形図と対照させて、場所を確定し、これらの資料を手引きに再探査に出かけた。

結論。鉦山事務所跡と選鉦所跡は新しい道路の開削で、整地されたものと思われる。何の痕跡も見つけられなかった。が、近傍の沢岸の石の間に、錆びたトロツコレールがあった。付近に鉦山設備があった証拠である。本ヒ露頭当たりで、沢の左岸にほぼ垂直に長く切り開いた坑口を見つけた。また、沢で、小さい黄銅鉦が散らばって入っている花崗岩も採集できた。名を、沢には幾つもの砂防ダムが設置されている。２号露頭の方も探査を行った。尚仁沢に平行している遊歩道を進み、吊り橋を渡った先の岸壁の所と思うが、確かではない。 探査日 ２０１０年１２月上旬

参考文献（２）「日本の鉦床総覧（上巻、下巻）」日本鉦業協会、１９６５年、非売品。



参考文献（２）より転載



第 2 図 地質図

参考文献（２）より転載。この図と下の現在の地形図を対照しよう。



拡大地形図。黄緑丸が坑口跡。だが、上の黄緑丸は不確かである。赤線で囲った当たりが鉱山事務所跡なのであるが、それらしい痕跡は見つけられなかった。黒破線が凡の経路。



鉾山事務所跡らしいところの沢には、鉾山跡で見かけるトロッコレールが残っていた。

尚仁沢駐車場から、本ヒ露頭があると思われる沢を見ている。沢の左側から簡単に先へ進める。砂防ダムが幾つもある。それ程苦もなく遡れる。



幾つかの砂防ダムを乗り越えて行くと、さらには高い砂防ダム、右側は急峻な岸壁となる。右側の岸壁に登っていく。

左下から右上へと細長い坑口となっている。本
ヒ露頭に違いないと判断した。入口の穴の幅は人
がようやく入っていける程度。中はしっかりして
いるよう。



尚仁沢遊歩道の吊り橋から見た2号露頭らしいと
ころの写真。中央が急峻な沢状になっており、そ
の上部が坑口跡か？



坑口跡（？）の所へ、迂回をして近
づいての撮影。写真の中央部分である。
が、坑口は確認していない。